

オウム事件関係者の
証言ビデオ
放映!!

元警察庁長官 國松孝次氏、ジャーナリスト 江川紹子氏、当時 聖路加
国際病院医師 奥村徹氏など、関係者の証言ビデオを放映いたします。

第20回 抗議デモ・学習会

5月15日(土)

●抗議デモ 午後1:30集合 1:50出発 烏山区民センター広場

●学習会 午後2:30開会 烏山区民センターホール

講演 「オウム真理教犯罪被害者救済法」 の現状とこれから

2008年12月に「オウム真理教犯罪被害者救済法」が制定されてから1年半が経過しました。
被害者・遺族には「給付金」の支給が始まりましたが、これでオウム真理教事件が解決した訳ではありません。今回は、被害者救済法の内容、制定までの経過、被害者・遺族の心情、そして烏山地域住民にとって今後重要になってくる「求償」について中村裕二氏と高橋シズエ氏に話をさせていただきます。

講師：弁護士、地下鉄サリン事件被害対策弁護団 事務局長 中村裕二氏
地下鉄サリン事件被害者の会 代表世話人 高橋シズエ氏



烏山地域オウム
真理教(現アレフ)
対策住民協議会



中村裕二氏の略歴

昭和31年5月27日 東京生まれ
昭和54年3月 中央大学法学部法律学科卒業
昭和62年4月 東京弁護士会に弁護士登録
平成元年～同2年 英国ロンドンへ留学
平成2年4月から現在まで東京都町田市にて「未来市民法律事務所」を設立してパートナー弁護士

平成4年4月から同12年3月まで
中央大学法学部法律学科講師
平成9年4月から同10年3月まで
東京弁護士会人権擁護委員会副委員長
平成12年4月から同21年3月まで
東京弁護士会業務妨害対策特別委員会副委員長
平成21年4月から現在まで
東京弁護士会弁護士業務妨害対策特別委員会委員長

自己紹介 オウムによって殺害された坂本堤弁護士と私とは、同期の司法修習生として、2年間同じ釜の飯を食った仲。平成元年11月、英国留学中にロンドンの日本大使館で坂本事件の報道に接する。平成2年2月帰国後に、「坂本堤弁護士と家族を救う全国弁護士の会」(影山秀人事務局長)に参加する。平成7年から、「地下鉄サリン事件被害対策弁護団」事務局長としてオウム真理教を相手方とする裁判を仲間の弁護士らと担当した。

オウム事件に関して、村上春樹氏の著作「アンダーグラウンド」(1997年3月20日講談社刊)の219頁以下、小林よしのり氏の著作「ゴーマニズム宣言 第7巻・同8巻」(1997年7月双葉社刊)の特別対談コーナーに登場など。

主催：烏山地域オウム真理教(現アレフ)対策住民協議会

共催：世田谷区

オウム真理教信者の 社会復帰を考える

オウム真理教による地下鉄サリン事件から15年、烏山地域オウム真理教対策住民協議会の活動も今年10年目になる。住民協議会の基本目標は、一貫してオウム真理教の「解散・解体」だが、その活動の到達点について考えてみたい。最も端的に表われているのは、名称や、組織の分裂問題であろう。オウム真理教は、現在「アレフ」「ひかりの輪」の二つの組織に分裂している。これは一見、オウム真理教が自発的に行ったかのように見えるが、大局的に見るとそうでない。住民の監視や、オウム真理教に反対する活動が、世論となり、その影響の大ききゆえに、オウム真理教が住民を欺き、組織の維持を目的に行ったものである。住民協議会が10年にわたって地道に活動してきた結果である。その影響か、一方の組織である「アレフ」は「麻原回帰」を叫び、信者に麻原の教義を強要し、信者の締め付けに躍起になっているように見える。住民協議会は、今後もこの様な危険な事態への対応を、第一義的な課題として受け止めなければならない。更に、今後重要な課題と言えは「脱会信者の社会復帰」である。私は5年前、広報部のオウム真理教施設取材で、埼玉県の八潮施設を訪ねた折り、一人の女性信者と対話した。女性は心身の健康に悩み、様々な宗教を遍歴し、オウム真理教に辿り着いたという。又、烏山地域の監視当番で、20代の男性信者と、地下鉄サリン事件や、故郷の両親の話をした。二人とも入信の動機は違っても、洗脳さえなければ、どこにでも居る素朴な青年という印象だった。現在のオウム真理教には、教団が起した事件で葛藤し、脱会した信者も数多くいるが、残った信者も少なくない。自らの信念を、かたくなまでに貫く信者がいる一方、心の底では常に自らの良心と闘い、翻弄されている信者もいることも確かである。責任ある部署にいた信者でも「脱会」は常にキーワードだった筈である。一度は脱会を決心し故郷に戻って見たが、自分の居場所が見つからず再び戻る信者。高齢の為、社会復帰をあきらめている信者。社会復帰より、現状維持を望む信者など、様々な考えや形態がある。人間の考えを変えることは、とても難しいことではあるが、住民協議会の目指すオウム真理教の「解散・解体」という目標達成の為には、「信者の脱会と社会復帰」という課題を、避けては通れない時期にきている。

第4回オウム真理教対策住民協議会主催 リサイクルバザーの報告

4月10日(土)晴天の中、烏山地域オウム真理教(現アレフ)対策住民協議会主催の第4回リサイクルバザーが行われました。

烏山区民センター前の広場は、まだ開始前というのに早くから大勢の人たちでいっぱいになりました。4回目ともなると、良い品が安く買えると、PRも行きとどいているように感じます。

住民協議会の活動を支えてくださる、多くの方々の物品提供があってこそ、リサイクルバザーの開催です。今年もたくさんの品々が届けられました。そして…

- ・品物を寄付したけれど、自分の出した物が売れるかどうか、心配で見に来ました。ついでに買い物して帰ります。
- ・引越しをして不用になったけど、良いものできれいなので捨てられなかった。バザーに寄付できて良かった。
- ・住民協議会の皆さんが、オウム反対の活動を続けて10年目と聞いて、感動しています。地下鉄サリン事件は忘れられません。がんばってください。
- ・募金をして行く若い男性から、署名はないのですかと聞かれました。観察処分の事と団体規制法の事を説明して、次回の署名活動のご協力をお願いしました。

など、多くの声を聞くことができました。バザー終了後のゴミも今年は多かったように思います。課題は増えてきていますが、一つ一つ乗り越えていきます。

“継続は力なり”の言葉を胸に、私たちは、ご協力いただいた皆さんの力を支えに、これからも活動を続けていきます。

今後も変わらぬご支援とご協力をお願い申し上げます。

バザー売上金 630,140円
募金 23,035円



監視活動に参加して 烏山中学校PTA

烏山中学校は、PTAが委員会活動の一つとして、監視活動に参加しています。昨年参加した人からの感想をいくつかお知らせいたします。

- ・時々ジャージ姿で散歩に出かけたり、ラフな格好で仕事に行く信者がいるのみで、特に変わったことはありませんでした。しかし信者が集団で居住していることは不安で、今後も気をつけて監視してゆくことが必要であると感じました。
- ・住民協議会の抗議デモ行進が行われていました。皆さんのご苦勞を垣間見た気がしました。
- ・周りがきれいに整備されていて見通しが良く、以前

よりずいぶん印象が変わっていました。出入りの人も少人数で、何も怖い感じが無いというのが、逆に不気味な感じがし、監視は続けた方が良いという印象を持ちました。

- ・信者と思われる方が普通の服で出掛け、向こうから挨拶されたのには驚きました。外を歩いていると、見た目は私たちと変わらないのだと感じました。
- ・信者が公安の方とも顔見知りになっているようで、挨拶なども普通にしている、私たちにも挨拶をしてくるほどです。地元で溶け込んでしまっているのが、凄く怖いと思いました。

住民協議会活動報告

4月19日(月) 実行委員会
4月20日(火) 住民協議会ニュース95号初校正

4月26日(月) 住民協議会ニュース95号再校正
5月6日(木) 事務局会議
5月10日(月) 住民協議会ニュース95号全区版発行

協議会ホームページアドレス <http://www.kyogikai.jp>

この協議会ニュースは、皆様の募金により発行されています。